

2019年吉日

看護協会の皆様へ

【研究代表者】東京医療保健大学 副学長

坂本 すが

## 「病院における看護補助者の確保および活用に関する実態調査」 への ご協力をお願い

看護師は質の高い医療提供体制のキーパーソンとして、これまで以上に看護業務の効率化を図り、看護師がより専門性を発揮できる働き方の推進が求められています。そのためには、看護師と看護補助者の協働を進める必要がありますが、その実態は明確ではありません。

そこで、私共は、看護補助者の確保・定着や協働のためのマネジメントなど、看護師と看護補助者の協働を進める上での課題や政策を検討するために、標記調査を実施することにいたしました。

本調査は、全国の病院を対象としており、各病院の看護部長1名と看護補助者（看護業務サポートスタッフ）1名に別々にWeb上でご回答いただくものです。令和元年度厚生労働行政推進調査事業費補助金の助成により実施しております。

看護協会の皆様には、是非ご理解とサポートをよろしくお願い申し上げます。

### 【調査方法】

調査依頼：7月下旬に、全国の約8400病院に調査協力依頼状とWebサイトのアドレス・調査項目を送付

調査回答期間：2019年7月下旬～8月中旬まで

看護管理者調査：看護補助者の人数、採用・労務管理、業務・研修、確保・定着対策など

看護補助者調査：就職ルート、労働条件、業務・研修、やりがい、就業継続意志、病院への期待など

【調査に関する連絡先】〒141-8648 東京都品川区東五反田4-1-17 東京医療保健大学医療保健学部看護学科

TEL：03-5421-7656-401（直通） E-mail：[m-sasaki@thcu.ac.jp](mailto:m-sasaki@thcu.ac.jp) 佐々木美奈子

# 「訪問看護における看護師の ケアの判断と実施に関する実態調査」



ご協力をお願い

いま、私たちの暮らしの場では高齢化が進み、医療へのアクセスが困難になりつつある地域も増えるなど、人々が療養する環境や看護を取り巻く環境が大きく変化しています。しかし、地域医療のニーズに corres 応するためには、現在の法律で定める業務範囲のみでは対応できないという声も聞かれています。そのため、地域で療養をする人々を支えるために、看護師にどのような役割が求められているのか、また、どのような制度が必要なのかを明らかにすることが重要です。

そこで、この度、全訪問看護ステーションの管理者の皆様を対象とした「訪問看護における看護師のケアの判断と実施に関する実態調査」を実施することとなりました。本調査を通じ、訪問看護に携わる現場の多くの看護管理者の方々から広くご意見をお伺いし、地域で療養する人々の医療ニーズにタイムリーに correspond していくための改善や解決に向けた政策提言につなげたいと考えています。

ご多用中大変恐縮に存じますが、調査の趣旨をご理解いただき、何卒ご協力くださいますようお願い申し上げます。

ご回答  
期 間

2019年8月●日( ) ~ 9月●日( ) ● : ●

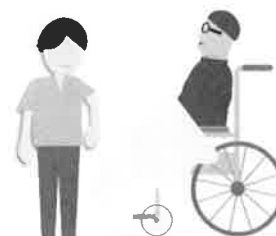
回答先

(URL 記入)

パスワード

● ● ●

QR  
コード



※ 本調査の結果は、本会事業の推進や政策提言の基礎資料として活用するとともに、協会ニュース、公式ホームページ、機関誌「看護」等を通じて、一部報告させていただきます。

【問い合わせ先】

公益社団法人日本看護協会 看護開発部 (担当: 安西、武田、太田)  
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 5-8-2  
TEL : 03-5778-8549 E-mail : yakuwari@nurse.or.jp

